

ライティングセンターにおける支援とは？

— ベストセラーの教科書をもとに再考する —

小林 至道

青山学院大学アカデミックライティングセンター

What Support Does the Writing Center Provide ? :
A Reconsideration Based on a Bestselling Book for Academic Writing

Norimichi Kobayashi

Academic Writing Center, Aoyama Gakuin University

1. 本報告の目的

本抄録は、青山学院大学外国語ラボラトリーとアカデミックライティングセンター共催によるオンライン公開セミナー（2025年11月19日）での報告内容を整理したものである。本報告は、ライティング支援／教育方法の専門家の視点から、アカデミック・ライティングのベストセラーの教科書を題材に、ライティングセンターでの支援およびライティング教育の方法論の再考を目的とする。主要な対象者として、ライティング支援や教育にかかわる実践者と、アカデミックな文章の作成に悩み・関心のある学生を想定している。

2. 『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』の概要と評価

本報告では、東京大学や京都大学の生協を中心にベストセラーとなっている、阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』（光文社、2024）を取り上げる。同書は、①初学者が独力で論文を書けるようになること、②中級から上級までの大学院生や研究者が、より優れた論文を、よりスピーディーかつシステマチックに書けるようになること、の2点を達成目標として掲げ、原理編・実践編・発展編・演習編の4編で構成される。

特長としては次の3点が挙げられる。第一に、論文執筆の入口にアーギュメント（主張）の定め方とその洗練の仕方を丁寧に解説している点、第二に、パラグラフ・ライティングとアカデミック・リーディングを実践的に連動させ、文章の膨らませ方や主張の論証方法を具体的に示している点、第三に、イントロダクションの重要性を明確化し、その作法と書き方を重点的に取り扱っている点である。これらは、従来の国内の教科書では相対的に手薄だった点への実践的なアプローチとして新規性があると言える。

一方で、本書の限界や読む際の留意点も挙げられる。本書全体を通して、著者の掲げる

達成目標の②に重心が置かれ、読み進めるにつれて達成目標①が置き去りになってしまっている印象を受けた。そのため、大半の学部生、特にレポートや論文をまだ書いたことがない初学者にとっては、理解するのが難しい内容となっている。また、「アカデミック・ライティングの教科書」と銘打つには、内容が限定的な点も気になる。例えば、「イントロと結論の自由度が高い」「論文に問いは不要」といった主張は、著者が専門とする人文系の論文を書く上では通用しても、他分野では通用しない恐れがあるだろう。また、引用方法や引用スタイルに関する解説がほとんどない点も、「教科書」というにはやや物足りなさを感じる点であった。

総じて本書は、「一流の研究者が自身の経験に基づいて書いた優れた実践書」という強みがある半面、「なぜ／どのように学生はレポート・論文を書けないのか」という初学者の実情を理解する視座が弱い。そのため、本書で提示されるアカデミックな書き方がどういった層の学習者にとって有意義なのかという点で、「教科書」というには普遍性に欠け、限定的な内容であることには留意が必要であろう。

3. 考察①：市販の「ライティング」の教科書は、現場でどう扱ったらよいのか？

ここまでの報告を踏まえ、考察①では、「市販のライティング教科書を、支援／教育現場でどう扱うか」という点について検討する。ライティング支援／教育者は、目の前の学生のレベルと到達目標を踏まえた選書が重要である。同様に、学習者側も自身のニーズ、習熟度、分野に合致した書籍を選ぶ必要があろう。学習者のレベルに合わない教科書の選定は、学習効果を損なうリスクが高まるためである。したがって、下表1や後掲する5「アカデミック・ライティングの推薦書」で示すようなアカデミック・ライティング関連書の多様性を前提に、学習者のニーズやレベルに合った教科書の選定が肝要となる。

表1 アカデミック・ライティングに関連する本は多種多様

本のタイプ	特徴
1. 総合的	アカデミックな文章を書く上で必要な行為を網羅的に解説
何で差別化？	・対象者のレベル：入門者向け～上級者向け
	・切り口（例：構成・論点を練る、調べる、組み立てる、執筆する、点検する）
	・特定の行為に重点（例：文章構成、引用のスタイル・ルール、調べ方、読み方など）
	・作法やルールの知識を重視、実践重視（ワークシート、課題なども提供）
	・レイアウト（例：版の大きさ、文字と図表・イラストなどの割合）
2. 目的にそって焦点化	アカデミックな文章を書く上で特定の行為・目的に焦点化して解説
(例)	・論理的な文章を書くためには…構成、パラグラフライティング、表現
	・主張に説得力を持たせるためには…論証、文献の調べ方、読み方
	・剽窃を避けるためには…引用・文献リストに関するルール・書き方
	・思考、専門性を深めるために…問い（リサーチクエスション）の立て方・深め方

4. 考察②：ライティングセンターにおける支援とは？

考察②では、報告者の専門領域であるライティングセンターにおける支援を、「ローカライズ」と「相対化」という二つのキーワードにそって再考する。

ローカライズとは、支援／教育の方法を、特定の国や地域、文化や言語に合わせて最適化することである。米国の常識や方法論が、必ずしも日本で自明に通用するわけではない。例を挙げれば、大学に至るまでの学校教育における論理的な文章執筆の経験が、米国と日本では大きく異なる。そうした背景も一因となり、日本の大学生の多くは、物事を問うこと、主張を持つこと、論証することに不慣れである。また、他大学で奏功した実践が自大学でも同様に機能するとは限らない。国立・公立・私立大学の受験科目に伴う学習習慣（例えば、記述式 or 選択式の解答に慣れている等）や基礎学力の違いは、大学入学以降にレポートや論文を書く際に、少なからず影響する。したがって、各大学の学生の現状やニーズを踏まえた支援／教育方法の最適化は必要不可欠である。

ここでの相対化とは、書く力を伸ばす最適な学習手段は人や状況によって異なることを前提とし、書籍・論文・動画・生成 AI・ライティングセンターなど、多様な学習手段を柔軟に組み合わせる姿勢を指す。ライティング支援／教育をする側は、自らが慣れたアカデミック・ライティングの書き方や引用スタイルを絶対視し、それを前提とする一方的な支援／教育をすることは控えなければならない。学問分野の違いを問わず共通して重要なアカデミック・ライティングの基本的な書き方の作法・知識を有するのはもちろんのこと、学問分野によって異なる作法やスタイルがあることを認識し、それらの正確な知識にできる限り精通した上で、学生のレベルや状況に応じて柔軟に支援／教育に臨む姿勢が重要である。

5. アカデミック・ライティングの推薦書

(1) 総合的・学部生向け（生成 AI との付き合い方に対応）

石黒圭. (2024). 『新版 論文・レポートの基本』. 日本実業出版社.

伊藤貴之. (2026). 『生成 AI を活用したレポート・論文の書き方』. 慶應義塾大学出版会.

甲田直美. (2025). 『大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書：〈書く力〉を引き出す問い 109』. ひつじ書房.

今村圭介, 原田幸子. (2025). 『プロセスで学ぶ大学生のレポート・論文作成』. ひつじ書房.

佐藤望, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦. (2026). 『アカデミック・スキルズ第 4 版：AI 時代の知的技法入門』. 慶應義塾大学出版会.

(2) 総合的・学部生向け（生成 AI との付き合い方には非対応）

井下千以子. (2019). 『思考を鍛える レポート・論文作成法』. 慶應義塾大学出版会.

桑田てるみ. (2015). 『学生のレポート・論文作成トレーニング: スキルを学ぶ 21 のワーク』. 実教出版.

佐渡島紗織，坂本麻祐子，太田裕子．（2015）．『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法 29』．大修館書店．

佐渡島紗織，坂本麻祐子，中島宏治，太田裕子．（2022）．『課題に応える 卒論に活かせる大学生のためのレポートの書き方』．ナツメ社．

嶋田大海，小林至道，中竹真依子．（2025）．『大学生のための対話で学ぶ日本語アカデミックライティング』．東京図書．

（3）総合的・上級者向け（生成 AI との付き合い方には非対応）

近藤克則．（2018）．『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』．医学書院．

佐藤雅昭．（2016）．『なぜあなたは論文が書けないのか：理由がわかれば見えてくる，論文を書ききるための処方箋』．メディカルレビュー社．

波頭亮．（2004）．『思考・論理・分析：「正しく考え，正しく分かること」の理論と実践』．産業能率大学出版部．

保田幸子．（2021）．『英語科学論文をどう書くか：新しいスタンダード』．ひつじ書房．

（4）パラグラフ・ライティング（段落の書き方）に関する内容が充実

石黒圭．（2020）．『段落論：日本語の「わかりやすさ」の決め手』．光文社新書．

松浦年男，田村早苗．（2022）．『日本語パラグラフ・ライティング入門』．研究社．

迫桂，徳永聡子．（2012）．『英語論文の書き方入門』．慶應義塾大学出版会．

（5）文献の調べ方・読み方

井上真琴．（2004）．『図書館に訊け！』．筑摩書房．

大出敦．（2015）．『クリティカル・リーディング入門：人文系のための読書レッスン』．慶應義塾大学出版会．

中崎倫子．（2024）．『大学図書館司書が教える AI 時代の調べ方の教科書』．Bow Books．

樋口裕一．（2019）．『「頭がいい」の正体は読解力』．幻冬舎．

（6）アカデミックな表現集

崎村耕二．（2017）．『英語論文によく使う表現 基本編』．創元社．

モーリー．（2022）．『アカデミック・フレーズバンク：そのまま使える！ 構文 200・文例 1900』（高橋さきの訳）．講談社．（原書刊行 2017）

二通信子，大島弥生，佐藤勢紀子，因京子，山本富美子．（2009）．『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』．東京大学出版会．